

長文化・複雑化する大学入試・高校入試・中学校入試に備え、読解力を育てよう

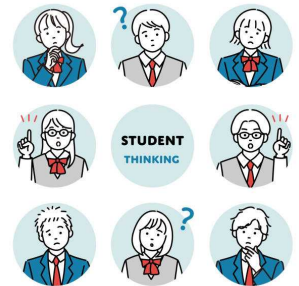
①教科別の「意味調べノート」②テーマ別の「新聞スクラップブック」③ジャンル別の「書き抜き読書ノート」を作り、「読解力」と「批判的思考力」を育てよう

開倫塾

塾長 林明夫

Q：大学入試・高校入試・中学入試が長文化、難解化しています。どう指導したらよいでしょうか。

A：各教科の勉強と同時に、「辞書」「新聞」「読書」「図書館」に親しみ、「読解力と「批判的思考力」を育てるのが一番です。



Q：入学試験の問題を読み解き、正解を導く「読解力」を身に着けるためには、どうしたらよいでしょうか。

A：(1) その第一歩は、英英辞典を含む「辞書」に慣れ親しみ、各教科別の「語彙数」を少しずつでも積み重ねることです。

(2) その第二歩は、英字新聞を含め「新聞」や、英語の本を含め「読書」に親しみ、「今までに見たこともない文章や情報、様々なジャンル（分野）の文章を論理的・分析的に読み解く力」を身に着けることです。

(3) その第三歩は、「創造性」と同時に、「思考力」、とりわけ、「批判的思考能力」を育てることです。



Q：「辞書」はどのように活用したらよいのですか。

A：＜意味調べノート＞のすすめ。

(1) よく意味の分からない「語句」に出会ったら、「気持ちが悪い」と考え、英英辞典を含め辞書を用いて調べることをおすすめします。

(2) 辞書で調べたことは、教科別の「意味調べノート」に、必ず、「書き写す」こと。

○英語は、「発音記号」も書き写す。

(3) 「書き写した」語句とその意味は、「音読練習」、「書き取り練習」をし、その場で、「身に着ける（定着）」させること。

(4) この教科別の「意味調べノート」は、折に触れ、最初のページから、「音読練習」と「書き取り練習」を行い、忘れないようにする。



(5) 「短期記憶を長期記憶にする」、「記憶の痕跡を残す」、「知識を定着させる」ことを、おすすめします。

(6) ① 「1日に、10語の日本語」、「1日10語の英語」の意味調べを行う。

② 「意味調べノート」に書き写し、

③ 「音読練習」「書き取り練習」を繰り返し、「定着」「身に着ける」。

○ 「1年で3650語」、「3年で1万語」、日本語と英語の「意味調べ」を行ない、「意味調べノート」に書き写し、「音読練習」と「書き取り練習」で、確実に身に着けることです。

○ 「積小為大（せきしょういだい）」、「小さいことを、毎日コツコツ積み上げ、大を為す。偉大なことを成し遂げる。」この、二宮尊徳の教えを大切にしましょう。

Q：「新聞」はどのように活用したらよいのですか。

A：＜テーマ別のスクラップブック＞のすすめ。

(1) 「新聞を、毎日、30分以上、第一面から、なめるように読み、自分で考える力、批判的思考能力(クリティカル・シンキング)を身に着けよう」。

(2) 「気になる記事は、ハサミやカッターで切り抜き、テーマ別の『スクラップブック』に貼(は)り付け、自分の意見や感想を書き加えよう」。

(3) 家庭や知り合いで購読している「昨日(きのう)」の新聞を、プレゼントしてもらい、1日遅れでもいいから、「新聞を、毎日、30分以上、第一面から、舐めるように第一面から読み、気になる記事を、ハサミやカッターで切り取り、ノリで『スクラップブック』に貼りつけ、自分の意見や感想を書き加える」。

(4) 英字新聞を含む新聞は社会の番犬。社会でおかしなこと、社会の問題点・課題があれば、ここがおかしいと、わんわん吠え、みんなに知らせ、どうすればよいかを考える機会を与えてくれるものです。

(5) 英字新聞を含む新聞は、日本や世界、地域の文化そのもの。過去から現在、現在から未来に伝えるべきものがあれば、綿密な取材を行い、読者に伝えるのが新聞の使命。読者は、それを、記者からしっかり受け止め、自分で考え、批判的思考能力を駆使し、なすべきことを行うことで、伝統や文化を踏まえたくうえで、社会は発展します。

(6) 英字新聞を含む新聞は、現代の百科事典。現代社会に必要な様々な、最先端の情報を、手際よくまとめて、また、わかりやすく、提示してくれるもの。学校での勉強、仕事、社会的活動、充実した人生を送るうえでも欠かせないもの。小学生から、中学生・高校生・大学生・大学院生・社会人・リタイア後の方が、家庭生活・健康生活も含め、ありとあらゆる情報が満載なのが新聞。小学生から、亡くなる間際まで、生涯にわたって、役に立つのが新聞です。



Q：「読書」はどのようにしたらよいのですか。

A：＜書き抜き読書ノート＞のすすめ。

- (1) 英語の単行本を含む「読書を、毎日、1時間以上行い、『作者との時空を超えた対話』を行い、思慮深さ、省察力、自分を振り返る力を身に着けよう」
- (2) そして、「気に入った文章や、語句があったら、ジャンル別の『書き抜き読書ノート』に書き写し、折に触れて読み直し、自分のものにしよう」
- (3) 大切な本は、決して処分せず、何回も、じっくり読みなおし、「作者との時空を超えた対話」を、生涯にわたって続けよう。
○自分にとり大切と思われる作者の本は、時間をかけてでもいいから、じっくり、行きつ戻りつしながら、全部読もう。



Q：「図書館」はどのように親しんだらよいのですか。

A：「図書館」に行こう。毎週何回か「図書館」に行こう。「図書館」を自分の居場所にしよう

- (1) 小学生・中学生・高校生・大学生は、「学校図書館」に毎日行こう。
○学校図書館は、学校での学習の中心地です。
○大学図書館は、大学での学問研究の中心地です。
- (2) 社会人だけではなく、小学生・中学生・高校生・大学生も、地域の「公共図書館」に、毎週何回か行こう。死ぬ直前まで、毎週何回か行こう。
○公共図書館は、地域文化の中心地です。
- (3) 「学校図書館」「公共図書館」には、英英辞典を含め様々な「辞書」英字新聞を含め様々な「新聞」英語本を含め様々な「読書のための本」、これらがすべてそろっています。



Q：学習塾、予備校、私立学校の幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

- A：(1) 「辞書・新聞・読書・図書館」にまずは親しみ、「学習習慣」、さらには「生活習慣」とすることが、「読解力」を育成します。「創造性」「思考力」、とりわけ「批判的思考能力」と「表現力」を身に着けることに役立ちます。
- (2) このようなコツコツ型の勉強を小学生、中学生、高校生の各段階で確実にやることこそが、長文化・難解化する大学入試(大学共通テスト・大学独自入試)、高校入試、私立中入試、公立中高一貫校入試に対応できるものと確信します。
- (3) しっかり指導して参りましょう。



Q：最後に一言どうぞ

A：僭越ながら、今月も先生方がお読みになれば必ずお役に立つ本をご紹介します。

- (1) 1冊目は、池上彰著「小学生から『新聞』を読む子は大きく伸びる」すばる社、2008年7月27日刊です。成績上位者の子は、日常的に新聞を読んでいます。
- (2) 2冊目は、國弘正雄著「國弘征夫英語の学びかた」たちばな出版、2006年1月31日刊です。同時通訳の第一人者であった國弘先生が一番大切にしていたのが「音読」です。本格的な音読練習が長文化・難解化する大学共通テスト、高校入試の最良の対策です。
- (3) 3冊目は、肥田美代子著「『本』と生きる」ポプラ新書、2014年12月1日刊です。なぜ日本人は1000年もの間「本」に親しんできたのか。そしてなぜ、そこから離れつつあるのか。
- (4) 4冊目は、河辻哲次著「部首のはなしー漢字を解剖する」中公新書、中央公論新社、2004年7月25日刊です。1～2か月かけてじっくり読みたい漢字の本。小中高生に国語を教えるすべての先生にお読みいただきたい一冊です。
- (5) 5冊目は、加島祥造編「対訳 ポー詩集 アメリカ詩選集(1)」岩波文庫、岩波書店、1997年1月16日刊です。ポーの詩ほど、日本の英語学習者が口ずさみやすい詩はありません。ぜひ、一度、ゆっくり、ゆっくり通して、音読、口ずさんでください。
- (6) 6冊目は、プレーハノフ著「歴史における個人の役割」岩波文庫、岩波書店、1958年10月5日刊です。「『自分の生命を友のためになげうつ』人はだれでも偉大である」という最後の一句は、心に響きます。是非、御一読を。

2023年4月12日記

